

農業集落排水事業堆肥化施設 [長野県・中野市]

情報収集官署名：関東農政局 中野統計・情報センター
☎ 0269-22-4508

[取組主体]
名 称 農業集落排水事業堆肥化施設
取組の範囲 中野市
開 始 年 度 平成 15 年度
[補助事業]
支 付 主 体 国
補 助 事 業 名 農業集落排水総合補助事業

1 取組目的と概要

(目的)

農業集落排水施設で発生する汚泥を堆肥にし、農地に還元することにより自然にやさしい循環型社会の推進を図っている。

(概要)

中野市では、市内 8 か所の農業集落排水処理区の汚泥に、特産のきのこ栽培から発生する使用済み培地「廃オガ粉」を混ぜて、発酵・熟成させ堆肥化する施設が平成 15 年に完成し、同年 5 月から試験運転をしている。

製造方法は、収集した脱水汚泥 0.9t 及び真空乾燥機で乾燥させた乾燥汚泥 0.7t に対し、廃オガ粉を 0.6t 混ぜる目安で堆肥化している。

現在、市内 6 か所の処理区が稼働しているが、17 年 1 月には、全 8 か所の処理区で供用開始となり本格的な運転が行われる。

計画では、1 年間に脱水汚泥約 800 t を市の移動脱水車で収集・搬入し、きのこ栽培農家から搬入される廃オガ粉 540 t (推定) と一緒に処理することで約 190 t の堆肥を生産し、全量を農地に還元していく。



< - 堆肥化施設の外観 - >

2 取組の効果

(効果)

中野市では、平成 12 年より公共下水道の汚泥と廃オガ粉を混ぜて堆肥化する施設が稼働していることから、当施設の完成により、市内全域の排水処理施設から発生する汚泥の有効活用と、安定的な処分を図ることが出来るようになった。

農業集落排水事業堆肥化施設で、1 年間に試験的に生産した堆肥は 67 t で、全量が希望者に無料で配布され、資源の循環が図られた。

3 現在の課題と今後の展開方向

(課題)

将来は、販売を予定していることから販売方法や場所について検討が必要となる。

(展開方向)

生産される堆肥について、販売方法や場所について検討し、全量農地などに還元できるようにしたい。

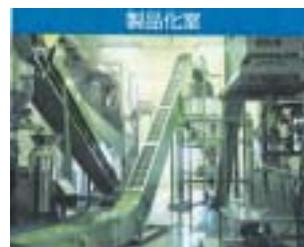
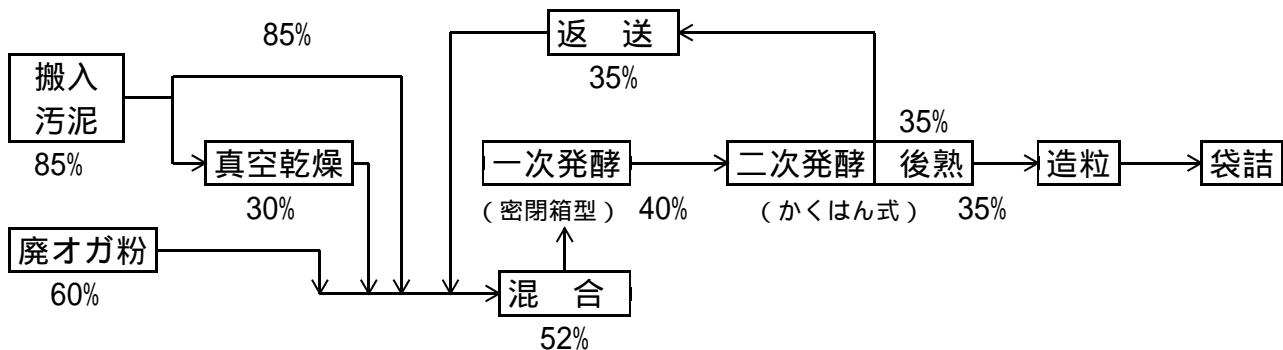
平成 17 年 1 月にすべての処理区で供用開始となることから、効率よく無駄のないように運営し、引き続き循環型農業の確立を図りたい。

「農業集落排水事業堆肥化施設」の施設概要

施設名称	農業集落排水汚泥堆肥化(コンポスト)施設	設置主体	中野市
運営主体	中野市	施設整備費	950,000千円
主な設備	乾燥施設：真空乾燥機 発酵設備：一次発酵 (密閉式箱型発酵槽) 二次発酵・後熟 (移動式回転かくはん方式)	稼働状況	乾燥 6日/週 たい肥化 2日/週

【施設のシステムフロー】

(数字は含水率)



(提供：中野市役所)

バイオマスの回収と再利用の流れ

バイオマス名	発生源	距離	発生量	収集・運搬方法	施設処理能力
汚泥	中野市内	20km	脱水ケーキ (脱水汚泥) 804t/年 (2.2t/日)	市の移動脱水車で 収集・搬入	脱水汚泥 2.27t/日
廃オガ粉	中野市内	20km	540t(推定)	きのこ農家が搬入	
再生バイオマス名	生産量	再生バイオマスの利活用先			
たい肥	189.8t/年(最大) (0.52t/日)	現在は、希望者に無料で配布。 18年度から販売する予定。			